

水俣の経験の大熊・双葉への示唆

■ 全町避難を強いられた点では決定的に違うが、水俣と以下のような共通点が存在。

- ・ 企業城下町の中心企業が原因で困難に陥ったこと
- ・ 差別や風評被害を受けてきたこと
- ・ コミュニティの崩壊や長期の経済停滞を余儀なくされたこと
- ・ 除去土壌による広大な埋立地が出現したこと

■ 水俣では、チツソの疲弊等による人口流出が続いたが、全国から「志」ある移住者を数多く獲得。

■ 水俣の経験から、大熊町・双葉町の本格的な復興に向けて、以下の取組が求められる。

- ・ 世間が共感する町民共通まちづくりのコンセプトと戦略を定める。
- ・ コンセプトと戦略に基づき他地域との差別化、競争力の確保、地域ブランドの確立を図る。
- ・ 多くの人々が「納得感」をもち、「自分ごと」として取り組める事業をつくっていく。

- 全町避難を強いられたという点については決定的に違うが、水俣と、以下のような共通点が存在する。
 - ・ 企業城下町の中心企業が原因で困難に陥ったこと
 - ・ 差別や風評被害を受けてきたこと
 - ・ コミュニティの崩壊や長期の経済停滞を余儀なくされたこと
 - ・ 除去土壌による広大な埋立地が出現したこと
- また、水俣は、チツソの疲弊等による人口流出が続いたものの、全国から「志」ある移住者を数多く獲得してきた。
- 大熊町・双葉町の本格的な復興に向けては、世間が共感する町民共通のまちづくりのコンセプトを定め、その実現のための戦略を描き、それに基づく体系だった施策の集中投入が必要と考えられる。
 - ・ 他地域との差別化、競争力の確保、地域ブランドの確立のためには、コンセプトと戦略が肝になる。
 - ・ 同じ事業を行う場合でも、関係者の「納得感」がないと足を引っ張る勢力が出てくる。多くの人の「参画意識」を醸成する必要。